



News from TNU

2018年4月、天津師範大学 DD 正式5期生と共に、于鵬先生を外国人特任教員としてお迎えしました。

はじめまして、天津師範大学日本語科の于鵬(ユウ ポン)と申します。早いもので、4月8日に特任教員として三重大学に赴任してから、もう二ヶ月経ちました。到着後の二日目一早く、大学の入学式に参加させていただき、校長を始め、方々の発言を聞き、考えを一新しました。また、午後に、荘厳たる雰囲気、教育学部学部長から、特任教員の人事異動書を手渡された瞬間、三重大学の一員となり、光栄に思うと共に、緊張感が一層増しています。

ここでの仕事は主にダブルディグリー留学生の監督管理と一部中国語、中国事情関係の教授の二つがあると、来る前に上司から言われました。でも、私は、三番目の大事な仕事として、日本文化・日本語の再認識、再学習を自覚しています。宿泊の寄宿舎は、生活用品が揃っているので、安心しました。それよりも、昔の留学時代と比べると、大満足。ただ、部屋にはテレビがないのが少し気になります。テレビは外国人にとって、レンジ、洗濯機よりも遥かに大事なもので、それが無いと、日本文化、日本語の学習に大きな支障をもたらされると私は思っています。勇気を出して、教育学部の総務係長の方に相談したところ、M先生の熱心により、快く一台を提供していただきました。また意外にも、自転車も貸してくださったことは嬉しかったです。本当に至れり尽くせりのご配慮で、心から感謝をしています。私の日々接触している留学生の中には、日本留学を2・3年送っても、聴力、話す能力がまだ不十分な学生が結構います。それはやはり日常練習の欠乏が原因です。もし各留学生の部屋にもテレビを一台ずつ備え付けることができれば、きっと留学生の語学力向上に役立つに違いありません。もちろん、難しいことではありますが、中国の言葉で、「办法总比困难多(方法は困難より多い)」と言われるように、知恵を出し合って、近い将来、設置できるように強く期待しております。

中国と日本は同じ漢字を使っていて、漢字文化圏に属するとされています。「学校」の「校」という文字は中国流の解釈で



●●● 天津便り ●●●

外国人特任教員 于鵬 (天津師範大学)

あれば、「木」偏と「交わる」から構成したもので、要するに、木の下で、いわゆる翠の下で、人々が切磋琢磨をして、初めて学校になるわけです。三重大学のキャンパスは



三重大学第一生協前で

正にそのとおりだと思われま。三翠に囲まれたこのキャンパスの中で、わたしの目を引いたのは、なんと言っても、巨木の翠であります。初日の昼食は第一食堂で済ませましたが、定食の美味さよりも、その前の大きな楠木に圧倒されました。木そのものが太くて、高くて、枝ぶりも優美で、その大きな身体は学生諸君を見守っているように見えます。また、無声のように、この学校の歴史も語ってくれるように見えます。以来、時間があれば、キャンパスを歩き回って、いろいろな樹木を楽しんできました。珍奇な木と歴史のある木が続々現れたと同時に、自分の不勉強も痛感しています。はじめて「クスノキ」の名札を見ていると、その漢字表示は「楠木」ではなくて、「樟の木」であることに驚きました。中国では、漢字の「楠」と「樟」は別の木で、「楠」のほうはずっと珍しく、名高い樹木であります。有名な紫禁城が「楠木」で、できているのは周知のとおりです。後で調べてわかったことですが、中国語の「楠木」は実は「タブノキ」で、日本語の「楠木」は「樟の木」を指すもので、「楠」という字は、南から来た木の意味だけだそうです。なるほど、今まで長い間、間違ったことを学生に教えたのですね。あらためて、「学无止境(学問は止まるところはない)」ということを実感しています。

ここで、一年間という短くもない、長くもない貴重な時間を大切に、定められた仕事はもちろん、できる限り、多くのことを学び、よりよく日本語、日本文化の理解に努めてまいりたい所存であります。

■ 心の壁を乗り越え、友好という花を咲かせよう ■

天津師範大学 DD 正式5期生 宋子健

2018年3月29日、ずっと前から楽しみにしていた日本にその日ようやく出発しました。天津を出て、途中韓国経由で名古屋中部国際空港に私を乗せた飛行機は無事に着陸しました。雨上がりの澄んだ空気は精一杯吸い込みたいほど甘くて、空を見上げた途端に、息を呑むほどに隙間なく輝く美しい満天の星空に見惚れました。空港では、スタッフの皆さんが優しい笑顔で丁寧に、簡単な日本語で対応してくれて、叫びたいほど興奮する

嬉しい心を抑えながら、「ようやく、日本に来た」と心の中で叫びました。

3月の末、津の桜の見頃を迎え、教科書に載っている写真、中国で聞いた先生の話で桜の美を味わうのではなく、この目で日本の桜の真の美しさを堪能したいと思い、「偕楽公園」に花見に行きました。甘い空気、きれいな小道、散りゆき、咲き乱れた桜、さまざまな光景が目映りました。咲き誇る満開の桜のみならず、風に吹かれて舞い落ちてきた桜吹雪もありました、桜ならではの美しさだと感心し、心を思わず奪われてしまった美しさでした。簡単に言い表すことができないのが桜の美しさだと思いました。

4月の入学式を経て、日本人の学生と一緒に授業に入りました。「おはようございます、えと、この辺に座っているのが中国からの留学生です。日本に来たばかりなので、もし難しい日本語、分からない質問があったら、ぜひ教えてあげてくださいね。お願いします。」と先生は優しくお願いしてくれました。すると、日本人の学生が「よろしくお願いします。」と親切にあいさつしてくれました。LINEを交換したり、大学案内してくれたり、分からない問題を丁寧に教えてくれたりして、いろいろなところを助けてくれました。はじめの授業で友だちがなんと4人もできました。嬉しくて嬉しくて夜に眠れないことまでになったこともあります。

ゴールデンウィークにはみんなでずっと前から行きたかった大阪に旅行に行きました。心齋橋、大阪城など有名な観光地を回って、たこ焼き、お好み焼き、大阪の名物をいっぱい食べました。夕方になって、戻りました。帰りの電車で「実は、中国の人はマナーが悪く、ルールを守らない、怖い人が多いと言われていたけど、宋くんはルールをちゃんと守ってるし、空気もよく読んでいる。いつもにこにこした顔で「これ、おいしいよ、よかったです、どうぞ」とおやつを分けてくれたり、紳士的に重いカバンを持つ

てくれたりして、中国人に対するイメージが変わった。こんなに優しい中国人と出会ったことを友だちに教えて、自慢したいんだ」と友だちの一人は微笑んで言ってくれました。

彼女の話聞いて、中国にいる私をさんざん叱ってきた友だちや親戚のことを思い出しました。「昼夜を問わず頑張ってきて、大学に入ったのに、日本語を学びたいなんて、お前はバカか。そんなに日本語を勉強したいなら、さっさと日本に行けよ」と言われました。

「はい、私は日本に行きます。いつも真面目に交通規則を守っていて通行すること、他人に迷惑を掛けないいろいろなところを助けてくれた日本人と出会ったこと、日本でこの目で見たこと、肌で感じたこと、心に感動したことなど、飾りのないありのままの日本をあなたたちに見せたい、伝えたいんだ」と心に強く思いました。交換留学生として、三重大に留学し、この3ヶ月のうちにたくさんの日本人と出会ったり、いろいろな体験をしたりしてきて、日本、日本人に対する理解も深めた今の私なら胸を張って、きっと私の友だちや親戚にそう言えるでしょう。あの時の私は黙っていて、何にも言えなかったです。彼らは日本に対して無知で、むしろある程度日本が嫌いかもしれません。それは、彼らが本当の日本を理解したことがなく、本当の日本人と出会ったことがないからだと思います。

日本人の優しさ、真面目さ、日本の魅力などできる限り多くの中国人に伝えたいと思います。それに、日本人にも真実の中国の姿、中国の新しい魅力を知ってもらいたいです。本当の姿を受け入れ、お互いの魅力を見つけ、心に触れ合うことによって、相互理解を深め、友好を促進することができます。いつか、心に残っているこの未知、知らない「壁」もいつかきっとなくなると私は信じています。この心の壁を乗り越え、友好という花を咲かせていきたいと強く思っています

2018年4月、ホーチミン市師範大学日本語学部より3名の留学生を迎えました。その一人ゲンさんにインターンシップ体験の報告を書いてもらいました。

## ■ インターンシップ体験 ■

### ゲン ティ スアン ダオ ホーチミン市師範大学日本語学部4年

#### MIEFでインターンをしようと思った動機

私は国際交流基金関西国際センターで一か月半くらい(2016年06月13日~2017年7月28日)日本語を勉強しました。それで、他の国際交流センターに参加したいと思いました。MIEF(Mie International Exchange Foundation:三重県国際交流財団)のホームページを見て、日本語を勉強している留学生と外国人や三重県に住んでいる外国人をサポートしたり、面白いイベントやプログラムを行ったりすると知り、参加したいと思いました。

インターンシップでは、三重県に住む日本人や外国人の方に出会ったり、話し合ったりと国際的な環境で働いてみたいと考えました。私は日本語がまだ上手ではないので、インターンに参加して、日本語だけでなく英語も話せるようになったり、友だちを作ったりしたいと思いました。さらに、日本人の働き方を知り、社会人を体験してみたいと思いました。

#### MIEF事業所での業務を体験しての感想

初めて、日本の事務所で働き、会社員のような生活でした。MIEFの方の話し方はわかりやすかったです。日本語は所々分かりませんでした。主な内容を理解できたから、仕事ができました。多分職場のみなさんは私にやさしい日本語を使ってくれたのだと思います。ベトナムに帰って日本語の教師になったら、生徒に教えるときにやさしい日本語を使いたいです。私は業務で使う文房具の言葉を知らなかったから、たくさんの言葉を勉強

しなければなりません。

私は「外国人活躍・創造発信事業事前研修」の運営補助、「医療通訳育成事業受講試験」の実施に係る資料準備、運営補助。外国語絵本の登録・配架業務、翻訳等と言うインターンシップの内容に関わりました。三日間だけのインターンシップでしたので、仕事内容は多くありませんでしたがいろいろなことを勉強しました。翻訳、イベントのために準備、イベントの司会として体験しました。初めて、司会者として日本で日本語や中国語やポルトガル語での「医療通訳育成事業受講試験」と言う国際的なコンテストに参加しましたから、緊張しました。ですが、MIEFの担当者と一緒に何回も練習したので、心配せず、仕事は順調でした。イベントの資料の準備をしました。そして、いろいろなファイルの作り方を学びました。これらを通して、日本人はいつも仕事を念入りに準備するのだと感じました。

更に、週末のイベントに参加したあとで、日本人と中国人と韓国人と日本語で話すチャンスがあり、新しい友達ができました。講演者からの講演の内容を勉強しました。ラッキーだったと思います。(インターンシップ期間:平成30年6月22日~24日)

